

令和3年度

本部町立学校自己評価・関係者評価の報告書

評価 (A:達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)

達成度 (A:目標達成, B:進展は有り, C:一部は進展有り, D:進展なし)

NO	項目	番号	1学期					Action (改善策)	2学期					比較	達成度	CHECK (成果と課題)	PLAN (次年度目標設定)
			A	B	C	D	評価		A	B	C	D	評価				
1	教育課程・学習指導	①	4	4	0	0	3.5	ミライムの活用推進による情報共有の徹底	6	3	0	0	3.7	0.2	A	教務主任を中心とした時数の徹底やミライムを通しての情報共有	終礼等を通して適切な教育課程の実施を意識させる
		②	1	6	1	0	3.0	個別指導の必要な児童の手立てを取り入れる	3	6	0	0	3.3	0.3	B	担任外も活用した個別指導の時間設定で下位児童の困り間に対応した	少ない職員の中、chromebookを活用した個別指導の工夫が必要
		③	2	6	0	0	3.3	週案の提出が遅い職員への声かけ	2	7	0	0	3.2	0.0	B	週案の内容にしっかりとコメントが書かれている職員が増えた	週案の提出の重要性を都度声かけする
		④	0	8	0	0	3.0	わかる授業・ICTを活用した授業展開を推進する	0	9	0	0	3.0	0.0	C	指導と評価の一体化に不安を感じる職員への声かけ	校内研修を始めとした研修会を設定する
		⑤	4	4	0	0	3.5	インクルーシブ教育を考慮し掲示物の削減を行う	3	6	0	0	3.3	-0.2	B	教室前面の掲示を減らすことの学校全体の統一が	教室環境の整備の声かけを学期始めに徹底する
2	生徒指導	①	6	3	0	0	3.7	報告・連絡・相談・記録の体制の確立を図る	6	3	0	0	3.7	0.0	A	情報の共有を図り、連携して対応することができた	細かなことでも常に相談する体制の維持強化
		②	7	2	0	0	3.8	少しでも気になることは担任会等を使って共有する	7	2	0	0	3.8	0.0	A	早期発見に努め、適時対応することができた	いじめを許さない学校風土づくりを継続して行う
		③	7	2	0	0	3.8	連携体制の強化をはかる	6	3	0	0	3.7	-0.1	A	連携体制の強化により迅速な対応ができた	連携体制の維持と職員の生徒理解を深める
		④	4	4	1	0	3.3	コロナ禍にあり、家庭・地域との協力が難しかった	2	7	0	0	3.2	-0.1	B	メール配信等による情報共有の仕方が工夫できた	コロナ禍を見据えた連携の在り方を模索する
		⑤	5	4	0	0	3.6	担任外でもその子の情報を共有し、褒める体制づくり	8	2	0	0	3.8	0.2	A	児童の自己有用感・肯定感が向上している	自己有用感・肯定感を高める取組の継続・強化
3	キャリア教育(進路指導)	①	4	4	0	0	3.5	コロナにより、外部講師の活用ができなかった。他の方法も模索する	3	5	1	0	3.2	-0.3	B	コロナ禍ではあったが、キャリア教育を進めることができた。	地域人材活用を継続して行う
		②	5	3	0	0	3.6	地域人材活用に学年で差が生まれている	4	4	1	0	3.3	-0.3	B	今年度活用した地域人材のリストアップする。	人材リストアップを活用した地域人材活用の促進
		③	5	2	1	0	3.5	夢ファイル活用促進により、児童の意識を高める	3	6	0	0	3.3	-0.2	B	夢ファイルの定着と活用促進	夢ファイルの活用と各学年のキャリア教育の研修が
		④															
		⑤															
4	安全管理	①	6	1	1	0	3.6	適切に行われている	9	0	0	0	4.0	0.4	A	計画通りに安全・防災計画を行うことができた。	安全計画・防災計画の見直しを図る
		②	7	1	1	0	3.7	安全意識の徹底が図られている	8	1	0	0	3.9	0.2	A	適時マニュアルとの整合性を確認できた	適時マニュアルの確認・訂正を行う
		③	7	2	0	0	3.8	安全点検が適切に実施されている。	9	0	0	0	4.0	0.2	A	新しい道路建設の安全点検マニュアルとの整合性を	適時マニュアルの確認・訂正を行う
		④	6	3	0	0	3.7	交通安全・マナーの徹底を図る。	6	2	1	0	3.6	-0.1	A	些細なことでも職員間で確認し、保護者にも周知する	交通安全・全マナーの徹底
		⑤	4	3	1	0	3.4	交通安全教室を始め、地域全体でマナー向上に取り組む	4	5	0	0	3.4	0.0	B	安心メール等を活用し、気になる点は素早く情報共有する	家庭・地域と連携して児童の安全確保を推進する
5	保健管理	①	7	2	0	0	3.8	日常の健康観察や健康相談体制が円滑にできている	9	0	0	0	4.0	0.2	A	相談体制が整備されている。	学校保健計画の適時見直しを図る。
		②	7	2	0	0	3.8	保健便り等で各家庭に学校の情報共有を図っている	6	3	0	0	3.7	-0.1	A	むし歯の治療率が向上している。	自己管理能力の向上を図るための工夫
		③	7	2	0	0	3.8	手指消毒をはじめ、うがい、手洗いの徹底を図る	7	2	0	0	3.8	0.0	A	コロナ対策の強化やマスク着用の徹底を意識させる	養護教諭をはじめ、全職員で取り組む意識を持つ
		④	7	2	0	0	3.8	快便のための「ウン知育教室」を開催できた	8	1	0	0	3.9	0.1	A	外部講師を活用し薬物乱用防止教室を開く	積極的に外部講師の活用を図る計画を立てる
		⑤	1	7	0	0	3.1	コロナ禍の影響で体力の向上に取り組みにくかった	6	3	0	0	3.7	0.5	A	スロージョギングの呼びかけの推進を図る	雲梯運動・スロージョギングの推進を図る

No	項目	指標課題は「順調」である		指標課題は、「概ね順調」である		指標課題は、「やや順調でない」		指標課題は、「順調でない」		合計	評価	所見及び備考
		人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)			
1	教育課程・学習指導	3	60.0 (%)	2	40.0 (%)	0	0.0 (%)	0	0.0 (%)	5	3.6	地域との協力は大事にして欲しい。 次年度は豊年祭もあるので、学校でも協力をお願いしたい。
2	キャリア教育(生徒指導)	5	100.0 (%)	0	0.0 (%)	0	0.0 (%)	0	0.0 (%)	5	4.0	
3	進路指導	3	60.0 (%)	2	40.0 (%)	0	0.0 (%)	0	0.0 (%)	5	3.6	
4	安全管理	5	100.0 (%)	0	0.0 (%)	0	0.0 (%)	0	0.0 (%)	5	4.0	
5	保健管理	5	100.0 (%)	0	0.0 (%)	0	0.0 (%)	0	0.0 (%)	5	4.0	

令和3年度

本部町立学校自己評価・関係者評価の報告書

評価 (A:達成できた B:ほぼ達成できた C:あまり達成できなかった D:達成できなかった)

達成度 (A:目標達成, B:進展は有り, C:一部は進展有り, D:進展なし)

NO	項目	番号	1学期					Action (改善策)	2学期					比較	達成度	CHECK (成果と課題)	PLAN (次年度目標設定)
			A	B	C	D	評価		A	B	C	D	評価				
6	特別支援教育	①	5	4	0	0	3.6	気になる児童は全て支援委員会で取り上げ情報共有する。	6	3	0	0	3.7	0.1	A	町SCとも連携し、個々の児童の困り感を共有した	職員減になっても支援体制の維持を図る
		②	3	5	1	0	3.2	困り感のある児童への支援体制の工夫	4	5	0	0	3.4	0.2	B	沢山の職員が目で見守ることの徹底	児童・保護者のニーズも確認しつつ、連携を深める
		③	6	3	0	0	3.7	養護教諭・SCと特別支援委員会で情報共有し、対応した	6	3	0	0	3.7	0.0	A	個々のケースに対しその都度連携を図ることができ	気になる児童の対応を共有し、スムーズに個別対応
		④															
		⑤															
7	教育目標・組織運営	①	6	3	0	0	3.7	職員の連携・協力はよく取れている。	4	5	0	0	3.4	-0.2	B	校務分掌の一人化で責任の所在を明らかにする	校務分掌は一人でも、協力し組織的に学校運営を行
		②	7	2	0	0	3.8	共有情報の管理の徹底を呼びかけた	7	2	0	0	3.8	0.0	A	個人情報の管理徹底をその都度呼びかけた	共有情報と個人情報の区別をはっきりさせ、情報漏洩に気を配る
		③	7	2	0	0	3.8	計画通りに会議を運営することができた	6	3	0	0	3.7	-0.1	A	企画委員会の持ち方があいまいになっていた	各担当が早めの学校運営を意識して提案を行う。
		④	5	4	0	0	3.6	小規模校は校務分掌が多岐にわたるので留意する	4	5	0	0	3.4	-0.1	B	早めの声かけにより行事を計画的にこなせた	今年度反省を生かした次年度計画を作成する
		⑤	5	4	0	0	3.6	報告・連絡・相談・記録の重要性を確認する	3	6	0	0	3.3	-0.2	B	共通理解を図り、臨機応変に対応できた。	行動連携の更なる強化を意識して運営する
8	研修組織	①	7	2	0	0	3.8	校内研推進委員会で方向性を確認できた	6	3	0	0	3.7	-0.1	A	ICTを活用した授業改善ができた	ICT活用を継続し、さらなる授業改善を図る
		②	7	2	0	0	3.8	自主研修にも積極的に参加するよい雰囲気ができている。	8	1	0	0	3.9	0.1	A	研究主任を中心に充実した活動ができた。	次年度へ向けてさらなる充実を図る内容の検討
		③	4	3	2	0	3.2	オンラインを駆使した研修に切り替えることができた	5	4	0	0	3.6	0.3	A	オンラインの活用方法も研修することで、工夫ができた	今年度でレベルアップしたICT活用の継続とさらなる
		④															
		⑤															
9	住民との連携	①	5	4	0	0	3.6	コロナ禍で活動の制約が多く、協力体制が難しかった	1	8	0	0	3.1	-0.4	B	コロナ禍で一部の活動に留まってしまった	メール等を駆使した連絡体制の強化やオンライン利用の検討
		②	4	4	1	0	3.3	学校評価を基に改善を図っている	3	6	0	0	3.3	0.0	B	学校評価の電子化に取り組み、素早く意見を集約で	地域・保護者から信頼される学校運営を推進する
		③	4	5	0	0	3.4	サング学習では地域の人材の活用ができた。	3	6	0	0	3.3	-0.1	B	ICTを利用した人材活用にも取り組むことができた	地域教育資源・人材の継続と掘り起こし
		④	7	1	1	0	3.7	各学級が適切に情報を発信している	6	2	1	0	3.6	-0.1	A	学校便り・公文の電子化を始め、確実に文書を届けることができた	学校HPの充実図り、地域への発信を心がける
		⑤	1	4	2	1	2.6	コロナ禍により地域の行事等の参加ができなかつた	0	7	2	0	2.8	0.2	C	コロナ禍により地域の行事等の参加ができなかつた	地域連携職員を中心とした学校職員と地域の連携強化
10	施設・設備	①	7	2	0	0	3.8	ミライムを活用した安全点検の実施ができてい	7	2	0	0	3.8	0.0	A	毎月の施設設備点検が計画的に行われた	各種点検を計画的に行い、安心・安全な学校をつくる
		②	4	5	0	0	3.4	chromebookの活用を図り、保管の方法にも気を配った	7	2	0	0	3.8	0.3	A	全職員のchromebook活用が定着している	ICTを活用した授業改善の充実と教材の保管の徹底
		③	5	4	0	0	3.6	長期休業日の備品管理のチェック	8	1	0	0	3.9	0.3	A	備品の管理・廃棄を計画的に進めることができた	計画的な備品購入計画の推進
		④															
		⑤															

NO	項目	指標課題は「順調」である		指標課題は、「概ね順調」である		指標課題は、「やや順調でない」		指標課題は、「順調でない」		合計	評価	所見及び備考
		人	(%)	人	(%)	人	(%)	人	(%)			
6	特別支援教育	5	100.0 (%)	人	0.0 (%)	人	0.0 (%)	人	0.0 (%)	5	4.0	・小麦(ムンジュール)畑を学校に植えることができて良かった。その活用方法の仕方も考えてもらいたい。 ・施設(体育館)の改装工事の予定を確認して欲しい。
7	教育目標・組織運営	4	80.0 (%)	1	20.0 (%)	人	0.0 (%)	人	0.0 (%)	5	3.8	
8	研修組織	5	100.0 (%)	人	0.0 (%)	人	0.0 (%)	人	0.0 (%)	5	4.0	
9	保護者・地域住民との連携	2	40.0 (%)	3	60.0 (%)	人	0.0 (%)	人	0.0 (%)	5	3.4	
10	施設・設備	5	100.0 (%)	人	0.0 (%)	人	0.0 (%)	人	0.0 (%)	5	4.0	